

# 国連防災世界会議直前 新しい世界防災の枠組みと開発的 視点での課題

マルティーザ・インターナショナル  
インクルーシブ防災アドバイザー／DiDRRN フォーカルパーソン  
可児さえ

# 3つのトピック

(1) 新しい防災枠組とこれまでの経緯

(2) 開発の視点からの課題

(3) インクルージョンの現場から：  
ベトナムでの事例

# 国際防災戦略枠組と障害分野とのリンク

1994年

ヨコハマ戦略

(国連自然災害の10年)

2005年

兵庫行動枠組 (HFA)

2015年

ポスト兵庫行動枠組  
(HFA2)

2003年～

ビワコ・ミレニアム・フレイムワーク (BMF)

2006年

障害者権利条約(第11条)

2007年

ビワコ+5(戦略23)

2012年

インチョン戦略(ゴール7)

# HFAは何に重点をおいたか？

## 5つの優先活動

- (1) 防災を国家の優先事項として扱う
- (2) 災害の認識、評価、モニタリングを行い、  
早期警告の強化
- (3) 教育、知識、イノベーションの活用  
(カルチャーオブセイフティの構築)
- (4) 根本的なリスクの原因の削減
- (5) 効果的な災害緊急支援に向けての準備強化

# HFAの良かったところ

- 全世界レベルの「防災」の意識が高まった。
- 各政府に「防災・災害対策部署」ができた。
- 国ごとではなく、地域レベルでの協力体制ができてきた。(ASEAN, SAARC, SOPAC)
- 市民レベルでも「なんとなく」防災の意識が浸透。

# HFAの足りなかった点

- 市民の参加を促すメカニズムがなかった。
- 「政府」が主な対象だったため、市民が「防災は政府の仕事」と思ってる場合が多かった。
- 社会的弱者やジェンダーに関してまったく触れていなかった。

# HFA2の特徴

People Centered  
Approached  
「人々が中心」

Whole society approach  
「社会全体のアプローチ」

Action Oriented Framework  
「行動が伴う枠組」

Multi Stakeholder Approach  
「各関連団体を巻き込んで」

Inclusive and Accessible  
「インクルーシブでバリアフ  
リー」

# 初めて障害者の参加が明記される (はず?)

- 「Relevant stakeholders」の中に「**障害者**」が必ず入るようになった。(今までは女性、子供、老人、貧困者などのみ)
- ジェンダー、年齢、**障害**で分類されたデータの共有
- 障害者とその団体は彼らのニーズに対応できるための災害のリスクアセスメント、実行のためのプランをデザインをする上で重要であり、とりわけ**ユニバーサル・デザイン**を取り入れる上で重要である。



# DiDRRN

(障害インクルーシブ災害リスク削減ネットワーク)

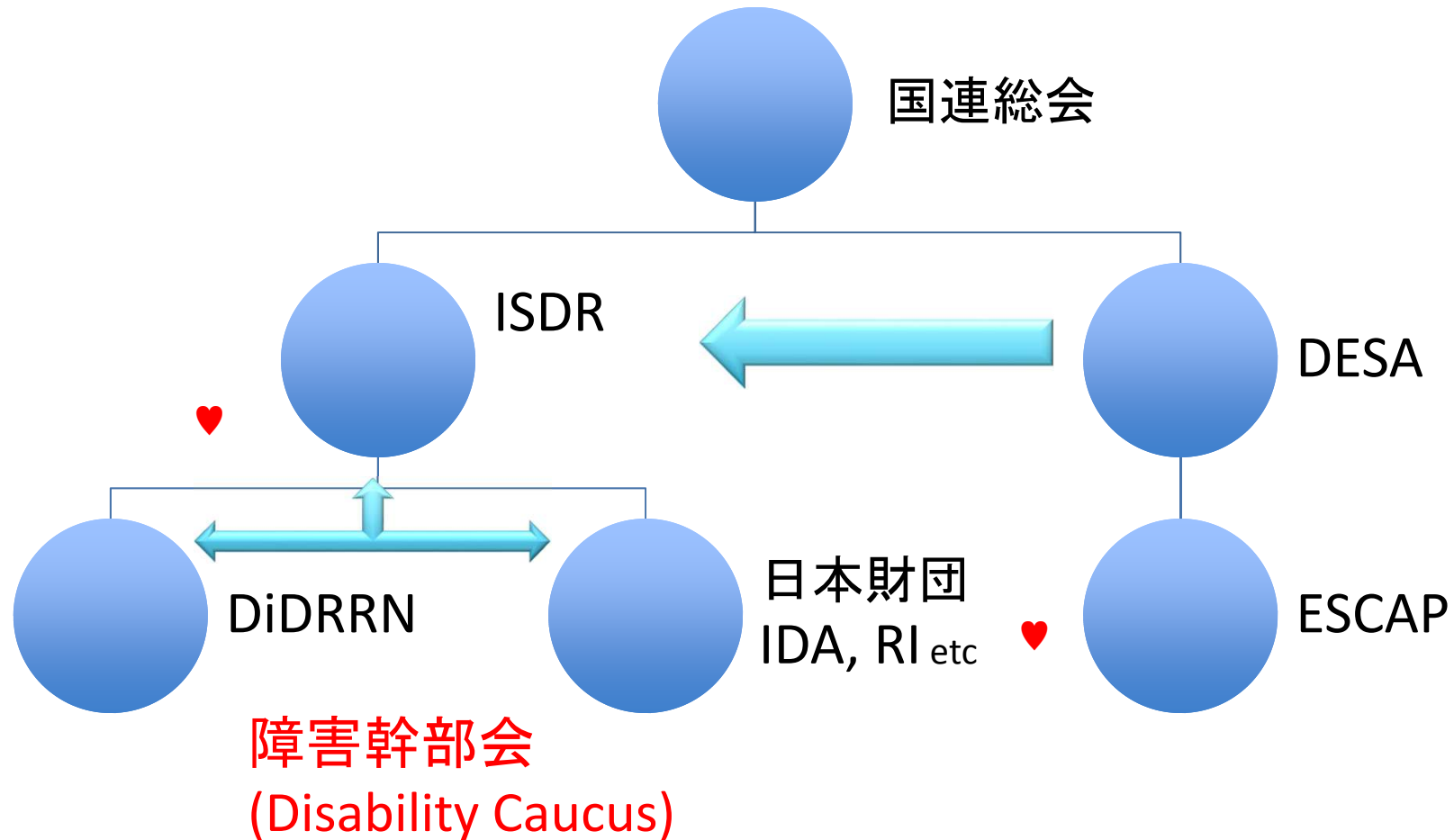


アジア太平洋地域の開発途上国で障害インクルーシブな防災事業を行う7団体により、  
2012年に設立された。

目的は障害インクルージョンがHFA2に明記されるように国連国際防災戦略事務局 (ISDR) に働きかけること。

# HFA2に向けて行われた協働

Post-2015開発アジェンダ9月



開発の視点からの課題  
ポスト2015年アジェンダに向けて

# 障害インクルーシブな開発を行う上での 課題

主流な開発事業を行う団体の多くが、「障害」は  
専門分野であると思っている

→「Other people's business」  
「誰かがやるだろう。。。」

# ある子供の支援団体との会話

A. 「障害インクルージョン大事ですよねー。  
がんばってください！」

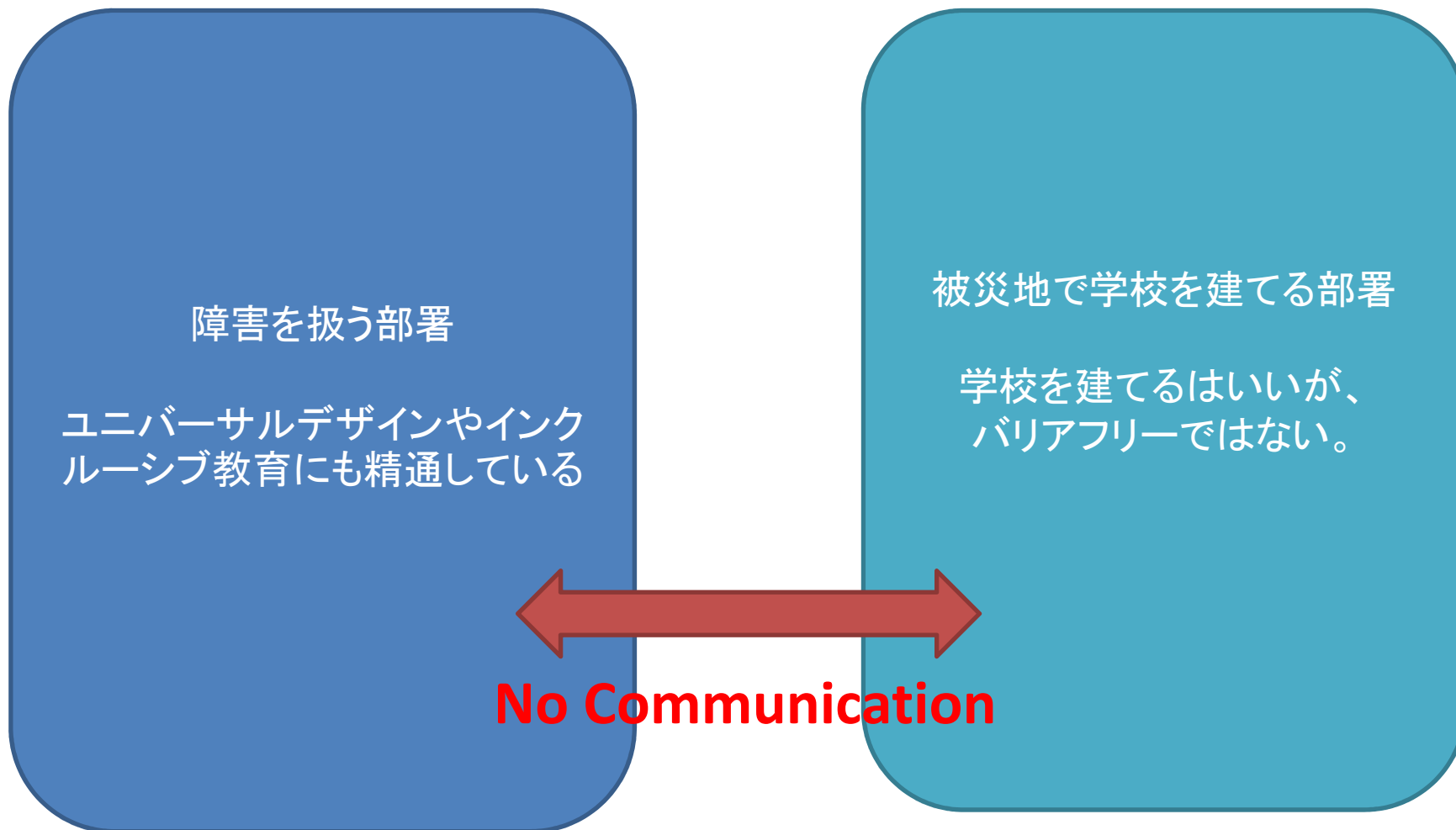
私 「じゃあ、一緒にやりましょうよ！」

A. 「いやー、うちは子供のための団体なので  
障害は扱わないんですよ」

私 「障害児はどうするんですか？」

A. 「う————ん (汗)」

# 例えばユニセフ



# 障害はセクターではない！

ユニバーサル・デザイン  
教育・雇用の必要性

主流化

全ての開発事業に、障害当事者が関わること。

ジェンダーと同じような基本事項として扱われること。

# 防災はセクターではない！

全ての開発事業の中で「リスク削減」が考慮されるべき。

土木、教育、情報、法律、ビジネス、福祉、  
保健衛生、医療、都市計画、環境、金融、  
etc



**災害リスク削減を  
主流化**



- 障害当事者団体ももっと、障害分野以外の場でインクルージョンを語っていくべき。
- ポスト2015年アジェンダに、当事者団体がどこまで頑張って食い込めるか？
- HFA2がどこまでポスト2015年アジェンダに反映されるか。。。

# インクルージョンの現場から：ベトナムでの事例



# プロジェクトの概要

## 目的

洪水時に、障害者とその家族が取り残されないよう、村レベルで彼らのニーズを取り入れた防災プランを作る。避難援護が必要な方へのサポートシステムの構築。

ドイツ外務省より支援

ベトナム中部クアンナム州の47村

人口: 5万8千864人

行ったトレーニングの回数: 162回

直接プロジェクトに参加した障害者とその家族(受益者) 2437人

チェンジ・エージェントの数: 58人

# ベトナムにおける障害者インクルーシブな 地域防災管理

ビデオ

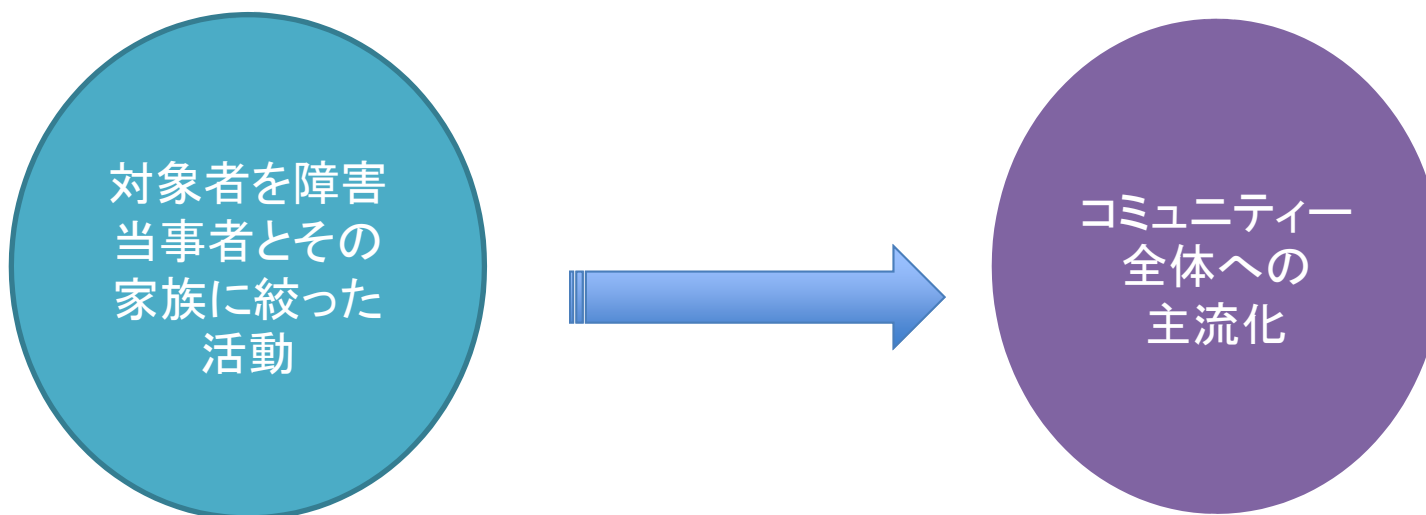
障害当事者の自信の増加

村人の意識の変化

コミュニティの団結

なぜ変化が起きたのか？

# ツイントラック・アプローチ



# 障害者とその家族への研修

- 村全体の防災活動、プランニングに後日参加する際に、積極的に発言できるような準備を行う。
- 他の村人たちを前にして、自分たちのニーズを統一された意見として代表者が述べられるように、優先順位を合意のもと決めておく。
- 自分たちができることは何かを考えてもらう。







# 行政や地元の有識者への 呼びかけ

- 障害と防災についての啓蒙活動を行い協力を得る。
- 地元政府に村の防災政策には女性と障害当事者を必ず加えるようにとのお達しを送ってもらう。
- 実際に現地視察を何度も行ってもらい、現場での様子を観察してもらう
  - 彼らの意識も変わる。



# グエン・ドウック・チョイさん ディエンバン市、洪水・台風対策委員会



避難訓練への参加を通して、私は障害者の方たちの積極性を見てきました。彼らは健常者の参加者よりも熱心でした。

障害を持つ方たちと彼らの能力への私の認識は間違っていました。彼らは計画過程とその実施に参加するのに十分な力と熱意をもっています。

彼らが参加することにより、地域は一層一体化し、災害時には一丸となってその力を発揮してくれるでしょう。

# 村全体での防災計画をまとめる

- 必ず、障害者の代表者が参加する。
- 自分たちのニーズが反映されるようにプレゼンを行う。
- 自分たちの作ったハザードマップを見せて、村全体のハザードマップのたたき台にしてもらう。
- 自分たちができることを積極的にアピールする。

ỘNG HÒA XÃ HỘI CHỦ NGHĨA VIỆT NAM M



# 全員参加の避難訓練

- 障害者の避難をアシストする救援チームの立ち上げとトレーニング。
- 避難経路と優先避難家庭の確認。
- 避難のアシストの仕方の確認。
- 時間を計りながら避難訓練を何度も行う。







# チェンジ・エージェンツ(CA)の存在

- 各村で、正當にインクルージョンのプロセスが行われているかを、日々モニタリングし、不當な差別や村人の理解不足があった場合、自ら説明や説得に応じる。
- また当事者やその家族の立場にたって、プロジェクトへの積極的な参加を呼びかける。
- 完全なボランティア。

# トラン・ティ・ホンさん

## CA



チェンジ・エージェントになって、防災の知識が身につきました。もっと自信もついて、主人や近所の方々が早期に避難できるように助けています。

村の会合でも、障害者の方たちが声を上げやすいようにお手伝いしています。

私は障害者の方たちと村の防災委員会の橋渡しができるように努めてきました。彼らはどんどん親しくなってお互いの壁がどんどんなくなっていくたのです。



# グエン・ディンさん

## CA



私は障害を持って30年暮らしてきました。障害を持ったことで自分には価値がないと感じてきました。なので、自分が正しいと思う時でさえ、口と噤んで生きてきました。

プロジェクトが始まり、私は5日間のトレーニングに参加しました。それが終わった頃には、前よりも自信がつき、自分の殻から抜け出せていたのです。(中途省略)

村へ帰り、村で行われた全ての防災のトレーニングに参加しました。チェンジ・エージェントだったこともあり、誰よりも多くトレーニングを受けることができたのです。

今はプロジェクトが終わり、寂しい気持ちでいっぱいですが、私たちは今も自分たちの役割を担って活動しています。

# 障害当事者がトレーナーになる



以前は出かけるのが怖かったです。特に両手で杖について歩くのが恥ずかしかった。

でも、今ではそれも変わりました。今も歩行が困難なことには変わりません。でも、それは問題じゃない。大事な事は自分たちが健常者のようになんでもできると証明できるチャンスを与えられたということ。

プロジェクトではたくさんの素晴らしい思い出ができました。

私のように両足が麻痺していて、杖なしに歩けない人間が、海で泳ぐなんて誰が想像できたでしょう！

**ローモデルになり、地域の障害者の方たち、その家族、地域住民の障害に対するイメージを変えていく。**

# 研修のポイント

まず自分たちの命を救う

そして、できるなら他の人の命を救うことにも貢献する。

= 全員のニーズとそれに対する行動計画を一緒に考える

# MSC:一番大きな変化

Most Significant Change

(参加型プロジェクト評価の手法)

自分にとって一番の変化を綴る  
みんなでお互いの変化を共有する  
みんなにとっての一番の変化を選ぶ

# なぜ変化が起きたのか？

潤滑油：

「全身全霊で、褒めて、勇気づけて、認めて、  
嫌な人も、難しい人も、まったく言葉で交流できない人も受け入れ、自分も見せて、ダメな自分も受け入れてもらって、そこで初めて成立する関係性が地域の中でできていった」

マルティーザのプロジェクトスタッフ













「お互いに、全てを受け入れ、受け入れてもらう」

それなくして、インクルージョンは成し得ない。

# まとめ

(1) 防災も障害もそれ自体がセクターではない。

(2) いかに当事者団体がポスト2015アジェンダの議論に参加し続けるかがインクルーシブ開発への鍵。

(3) 全身全霊のハートがないとインクルージョンはできない。

DiDRRN

[www.didrrn.net](http://www.didrrn.net)

saekani@gmail.com